

国立公園 雲仙  
バードウォッチング  
ガイド



●ウソ  
(Bullfinch)  
(冬鳥)

自然公園でのルール

- ① 植物や動物、鳥、昆虫などはとらずに観察する。
- ② 歩道、広場など定められた場所以外に立ち入らない。
- ③ 大声をあげたり、ラジオなどを鳴らしながら歩かない。
- ④ 自然の美しさを保つため、ゴミは必ず持ち帰る。

国立公園 雲仙  
バードウォッチング  
ガイド



●キビタキ  
(Narcissus Flycatcher)  
(夏鳥)

自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう！  
自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしましょう！  
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう！

監修・発行 / 雲仙お山の情報館運営協議会  
(一財) 自然公園財団雲仙支部

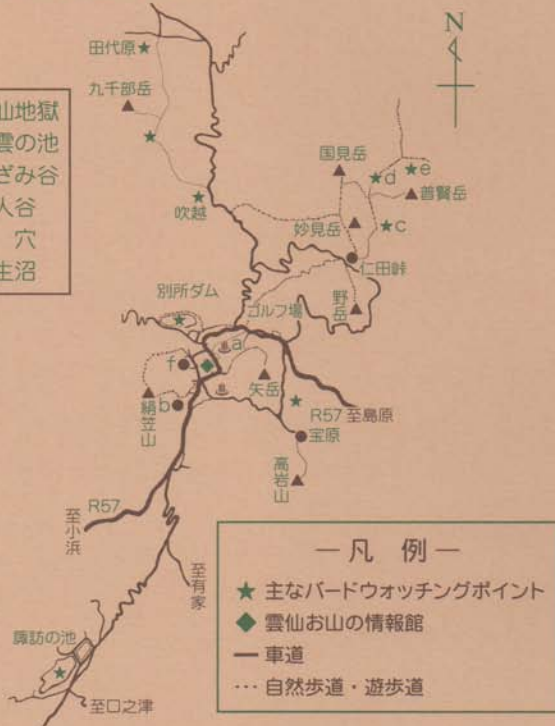
〒854-0621 長崎県雲仙市小浜町雲仙320 ☎(0957)73-3636  
[URL] <http://www.dango.ne.jp/unzenvc/> FAX (0957)73-2136

## \* 雲仙の野鳥

雲仙は、島原半島に孤立した山地で、面積は広くありませんが、江戸時代から自然(森林)が良く保護されて来たこと、標高差が大きいことなどから、生息する野鳥の種数・個体数ともに多くの野鳥が生息しています。

雲仙(国立公園区域内)では、1991年1月までに149種の野鳥が確認されています。季節別に見ると留鳥39種、夏鳥30種、冬鳥61種、旅鳥15種、迷鳥4種となり、夏期より冬期のほうが種数のうえでは多くなります。中腹以下では種数、個体数とも冬期のほうが多くなりますが、中腹以上では、留鳥のウグイス、ヤマガラなどや、夏鳥のオオルリ、キビタキ、センダイムシクイなど10種ほどの野鳥が極めて高い密度で生息し繁殖しており、個体数(生息密度)は夏期のほうが多くなります。この他、外来生物法で特定外来生物に指定されているソウシチョウが生息域を広げており、既存の生態系への影響が懸念され、特にクロツグミやオオルリへの影響が心配されます。

- a. 雲仙地獄
- b. 白雲の池
- c. あざみ谷
- d. 鬼人谷
- e. 風穴
- f. 原生沼



## \* バードウォッチング・コースガイド

### ● 普賢岳周辺(春、夏)

雲仙お山の情報館→仁田峠(\*20分)→あざみ谷(20分)→普賢岳山頂(60分)

この地域は国立公園雲仙の核心部で、森林が特に良く保護されていて、夏期における森林性の野鳥の密度が極めて高く、春から夏に雲仙で見られる野鳥のほとんどが見られます。

仁田峠からあざみ谷への歩道に入ると、ウグイス・センダイムシクイ・ヤブサメ・ヤマガラ・シジュウカラ・キビタキ・オオルリ・ホトトギス・ツツドリなどの声が聞かれ、姿もよく見ることができます。

あざみ谷付近では、クロツグミ・ミソサザイの音が聞かれるようになり、さらに登って、鬼人谷付近では、オオルリ・ミソサザイが多く、メボソムシクイの声も楽しめるようになります。



クロツグミ♂ (Japanese Grey Thrush)

### ● 九千部岳、田代原(春、秋)

雲仙お山の情報館→九千部岳登山口(\*15分)→九千部岳(60分)→田代原(50分)

このコースは植林、低木林、二次林、原生林に近い自然林、草原と植生の変化が大きく、植生に伴い野鳥の種類も変化し多くの種類が楽しめるコースです。

春、登山口の手前の吹越では早朝、オオルリ・フクロウ・ウグイス・ホトトギス・センダイムシクイなどのコーラスが楽しめます。自然歩道に入るとしばらくは植林で野鳥は少ないですが、牛首付近の低木林ではウグイス・ホオジロなど、二次林に入るとヤマドリ・カケス・センダイムシクイ・メジロ・カラ類など、田代原への谷を下る自然林に入ると二次林の野鳥に加えてオオルリ・ミソサザイなどが楽しめます。

田代原の草原に出るとホオジロ・ウグイスが多く、カワラヒワ・モズも見られます。秋には、エソビタキ・コサメビタキなどの旅鳥も見られます。



カケス (Jay)



## ●温泉街周辺(冬)

### 1) 雲仙お山の情報館→地獄周辺(一周30分)

石畳の遊歩道が整備されており、地獄の景観を楽しみながら、バードウォッチングができます。

冬、地獄周辺ではカラ類の混群やホオジロ・カシラダカ・ミヤマホオジロ・アオジなどがよく見られ、地獄の中ではキセキレイも見かけます。

### 2) 雲仙お山の情報館→別所ダム(20分)(ダム一周40分)

別所ダムではコガモ、マガモ、キンクロハジロ、ホシハジロなどのカモ類や、カイツブリ、ハクセキレイなどが見られます。

また、周辺の森ではウグイス・ホオジロ、また、ルリビタキも姿を見ることがあります。

### 3) 雲仙お山の情報館→ゴルフ場(30分)→宝原(30分)

アスファルトの道路で散策路としては、あまり良くありませんが、カラ類の混群・ウグイス・ホオジロ・アオジ・ウソ・アオゲラ・マヒワ・シメ・ルリビタキなど、多くの冬鳥や留鳥と出会えるコースです。



ハギマシコ♂  
(Long-tailed Rosy Finch)

## ●諏訪の池(冬)

### 雲仙お山の情報館→諏訪の池(\*20分)

諏訪の池は古い溜め池で、上池・中池・下池の3つの池に分かれています。上池・下池ではカルガモ・マガモ・ハシビロガモなどのカモ類が見られ、全ての池やその周辺ではカイツブリ・カワセミ・イソシギ・コサギ・アオサギ・ハクセキレイなどの水鳥や水辺の鳥が見られます。

周辺の園地や農耕地、雑木林の林縁ではツグミ・シロハラ・イカル・シメ・アオジ・クロジ・タヒバリ・ジョウビタキなどの冬鳥や、ホオジロ・ウグイス・メジロ・キジ・カワラヒワ・キジバト・カラ類などの留鳥が見られます。



カルガモ  
(Spot Bill Duck)

注、( )内数字は所要時間。\*印は車利用の場合。

## \*雲仙の野鳥チェックリスト(おもな野鳥)

種名	出現期	出現頻度	種名	出現期	出現頻度
カイツブリ	留	A	タヒバリ	冬	B
ゴイサギ	留	B	ヒヨドリ	留	A
ダイサギ	留	C	モズ	秋	A
コサギ	留	B	ヒレンジャク	冬	C
アオサギ	留	A	カワガラス	留	D
ツクシガモ	冬	D	ミソサザイ	留	A
オシドリ	冬	A	コマドリ	旅	D
マガモ	冬	A	ノゴマ	旅	D
カルガモ	冬	A	コルリ	旅	C
コガモ	冬	A	ルリビタキ	冬	A
ヒドリガモ	冬	A	ジョウビタキ	冬	A
オナガガモ	冬	B	ノビタキ	旅	C
ハシビロガモ	冬	A	トラツグミ	留	B
ホシハジロ	冬	A	クロツグミ	夏	A
キンクロハジロ	冬	A	アカハラ	冬	C
スズガモ	冬	D	シロハラ	冬	A
ミサゴ	留	B	ツグミ	冬	A
トビ	留	A	ヤブサメ	夏	B
オオタカ	冬	D	ウグイス	留	A
ハイタカ	冬	D	メボソムシクイ	旅	B
ノスリ	冬	C	センダイムシクイ	夏	A
サシバ	夏	B	キクイタダキ	冬	C
チョウゲンボウ	冬	D	セッカ	夏	C
コジュケイ	留	B	キビタキ	夏	A
ヤマドリ	留	A	オオルリ	夏	A
キジ	留	A	サメビタキ	旅	D
バン	留	B	エソビタキ	旅	A
オオバン	冬	A	コサメビタキ	旅	A
イソシギ	冬	C	エナガ	留	A
ヤマシギ	冬	D	ヤマガラ	留	A
タシギ	冬	D	シジュウカラ	留	A
キジバト	留	A	メジロ	留	A
アオバト	留	B	ホオジロ	留	A
カッコウ	夏	A	カシラダカ	冬	B
ツツドリ	夏	A	ミヤマホオジロ	冬	A
ホトトギス	夏	A	アオジ	冬	A
アオバズク	夏	C	クロジ	冬	B
フクロウ	留	A	アトリ	冬	A
アマツバメ	夏	B	カワラヒワ	留	A
アカショウビン	夏	B	マヒワ	冬	B
カワセミ	留	C	ハギマシコ	冬	C
アオゲラ	留	B	ベニマシコ	冬	C
コゲラ	留	A	ウソ	冬	A
ヤイロチョウ	夏	D	イカル	冬	B
ヒバリ	留	A	シメ	冬	B
ツバメ	夏	A	スズメ	留	A
イワツバメ	旅	C	カケス	留	A
キセキレイ	留	A	ハシボソガラス	留	B
ハクセキレイ	冬	A	ハシバトガラス	留	A
ピンズイ	冬	B			

## \* 留鳥 (Resident)

雲仙では約40種(漂鳥及び一部冬鳥を含む)の野鳥が留鳥として生息しています。この内最も多く生息しているのが藪や低木林を好むウグイス、ホオジロや、照葉樹林、落葉樹林を好むヤマガラなどで、植生を良く反映しています。

### ホオジロ▶ (Meadow Bunting)

スズメより大きな褐色の鳥。一年を通じて最も普通に見られる野鳥です。

山頂部の個体の多くは冬期、中腹以下に移動します。



### ◀ ヤマガラ (Varied Tit)

スズメよりやや大きく、腹部の栗色が目立つ鳥。中腹以上の自然林や二次林で一年を通じて普通に見られます。



### ◀ ウグイス (Bush Warbler)

スズメ大のオリーブ褐色の鳥。公園全域で周年、ごく普通に見られます。夏期、特に中腹以上のウンゼンザサの多い場所では、高密度で繁殖しています。



### ミンソザイ (Japanese Wren)▶

体長10cmほどの小さな褐色の鳥。普賢岳一帯や、九千部岳から田代原の谷などで繁殖しています。3月初めから6月の初めまで、この鳥のにぎやかなさえずりを楽しむことができます。



## \* 夏鳥 (Summer Visitor)

雲仙で夏鳥として確認されている野鳥は約30種(一部旅鳥を含む)。特に個体数が多いのがセンダイムシクイ・ヤブサメ・オオルリ・キビタキなどの森林性の鳥です。

1,000m以上の落葉樹林で生息密度が高く、クロツグミなども見られ、近年個体数が増えつつあります。

### ◀ オオルリ (Blue-and-white Flycatcher)

スズメ大の青い鳥。4月初めに渡来し、中腹以上の林で普通に見られます。特に普賢岳一帯では高密度に生息し繁殖しています。



### ホトトギス▶ (Little Cuckoo)

ハト大のカッコウの仲間。5月半ば頃に渡来し、公園内全域で普通に声を聞くことができます。主にウグイスに托卵し、繁殖しています。



### ◀ ヤブサメ (Short-tailed Bush Warbler)

全長10cmほどのウグイスの仲間。4月初めに中腹以上の林に渡来し、繁殖しています。特に普賢岳付近では、かなり高密度に繁殖しています。



### センダイムシクイ▶ (Crowned Willow Warbler)

スズメよりやや小さなウグイスの仲間で、ウグイスより鮮やかなオリーブ色の鳥。4月初めに渡来し、低山部から山頂部までの林でごく普通に生息繁殖しています。





## \* 旅鳥 (Transient)

雲仙で確認されている旅鳥は約15種で、主に春の渡りの3月下旬から4月頃と秋の渡りの9月下旬から10月頃に見られます。また、草原性の中腹以下の農耕地などで、森林性のもの、高山性のものは中腹以上で多く見られます。

### エソビタキ▶ (Grey-spotted Flycatcher)

スズメ大で胸の縦斑が目立つ灰褐色の鳥。9月中旬から10月中旬頃、主に温泉街付近以下で、数羽から数十羽の小群が普通に見られます。



### ◀コマドリ (Japanese Robin)

スズメ大のオレンジ色の鳥。ごく少数が鬼人谷や風穴付近で越夏しますが、雲仙ではほとんどが旅鳥です。春の渡りの時期には中腹以上で、秋の渡りの時期には山頂部付近で見られます。

### コルリ▶ (Siberian Blue Robin)

雄の上面は、暗青色。雌は全体がオリーブ褐色で下面は淡色。全長約14cm。雲仙では4月初めと、8月上旬から9月上旬の春と秋の渡りの時期に、あざみ谷などの山頂部で少数が見られます。



## \* 冬鳥 (Winter Visitor)

雲仙で冬鳥として確認されている野鳥は約61種にのぼります。渡りの初期には山頂部でも多くの個体が見られますが、個体の多くは主に温泉街周辺やそれより標高の低い地域で越冬しています。

### ◀ミヤマホオジロ (Yellow-throated Bunting)

スズメ大の褐色の鳥で冠羽があり、眉と喉の黄色が目立ちます。10月から4月にかけて、温泉街付近から標高の低い地域で、地上において採餌する姿が普通に見られます。



### ルリビタキ▶ (Red-flanked Bluetail)

雄は背面が青く雌は褐色で、雌雄とも脇腹が橙色のスズメより小さな鳥。11月から4月まで、温泉街付近から標高の低い中腹にかけて、単独で縄張りをもって越冬します。



### ◀シメ (Hawfinch)

スズメより大きく、くちばしの太いずんぐりした鳥。温泉街付近から標高の低い地域で、単独か小群で越冬しています。年によって渡来する個体数にかなり変動があるようです。

### アオジ▶ (Black-faced Bunting)

スズメより大きな緑褐色の鳥。10月から4月にかけて、温泉街付近から標高の低い地域で普通に見られ、厳冬期には道路や人家付近でもよく見ることができま

